

# 呐喊

とっかん

## ■ 創刊の辞

「堡壘を築け」

小野寺 晋

## ■ 獄中よりの手紙

「我らフェニックス」

久留島純一郎

## ■ 返信 AIFから獄中のRG革命戦士へ

「山田弾薬庫マルチサン」

破壊闘争は不滅だ！ 添島 徹

関西救援会機関誌創刊号

すべて人の主張は、賛成されれば前進をつかさとし、反対されれば奮闘をつかさとするのである。ところが見知らぬ人との向を叫ぶ相手は一向反対なない場合、賛成でもなければ反対でもない場合、あつたも種これの苦悶の身をまひたすうに、手をとつてこいよなりからぬのである。「これは何と悲しいことであらう。その私に、自分の感じたまものを殺戮をなすけた。

思つては自分も、今ではもう、切なき形勢を待つて待つたはるべしといつた人面をはななくなつてしまつてゐる。だが、あの頃の自分の敗戦の悲しみを忘れられないせいであつた女、時として、思ひの胸に口から吐き出すことはあるが、せめてそれによつて、殺戮のたれ中を前進する騎士に、彼をまいて生霊をまけられるやう、慰めの後方でも毎々いであつて思つた。あの敗戦の時を、思ひこいよ悲しい女、憎たしい女かあかしい女、そなたにこの世のあつたあつたの……

魚屋が 自らたす

判別用の紙

和生 屋生 を 繋 け、

（小島村を）

（注）

この頃を、所謂なぐさの……  
……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……  
……







帝統一戦線を再編させようという。何故なら、「六月末

戦」主義者の軍事政策の継ぎ足そつをせざるならぬとの、  
内訌を醸成する中核派を始めとする諸派は「駒の下は  
どどよめはよいが」「こいつ格高降り、現行海軍期首軍  
の直統派生性の海軍中心、国事を揺るがす者の共産主  
義的国策、共産幹部戦争を勝利し故く軍事の拡大を以  
てせよとや藤なきるをせよといふであらう。

R.G.A.I.F.A.は共産主義者同盟の下、「自衛隊  
国主義政府対面、帝國主義防衛隊は、桂坊論を「ミヤ  
を断つる敵するもの」といつ、インディミナ共産主義者の  
帝心、拡大化を勝ち取るべく日帝の侵略、又共産派を  
砕くものであらう。阿西又帝統派は、共産派、共産派  
G戦上の表裏を反り藤なき、六月半前に進軍を開始する  
決意である。

敵艦力に折衷をたてているR.G.A.及びA.I.F.A.の戦士諸  
君は、マントーの共産同時戦争の路線は不承である。  
不承マントウ戦士諸君は、マントーはなまの共産派  
戦を共産派の腹をこき、共産主義を揺るがすもの、

皇統一を遂行するであらう。  
じつに同志諸君の録中も戦争の勝利の費用を懸けていつ、耳  
時、良々の面が体面を懸けて、これのこを祈ります。

R.G.A.I.F.A.を

六月半まで

日本の侵略、下等軍を共産主義戦争へ

共産派は共産派、アリアリヤ独裁石ヤ

阿西又軍事機密記

一九七〇年五月二三日

共産主義者と

帝國主義者はなまの共産派である。

我々がなまの共産派である。

じつに同志諸君の録中も戦争の勝利の費用を懸けていつ、

呐喊

関西救援会創刊号

< 第 100 >

編集・発行責任者

高槻市下田部町1-20-210 久松英世

狭崎 由子

連絡先

現代史研究会ヒンキ社

TEL 大阪06(921)114577

1970.6.11